

★ 成果と課題 ★

(1) 講演会の記録などより

<講演会の記録ポイント>

- ・ 教師も児童生徒も、穏やかな雰囲気であった。
- ・ アクシデントがあっても実態に応じて臨機応変に対応していた。
- ・ 全ての児童生徒が、活動に「参加」していた。
- ・ 個々にあった課題が設定されていた。
- ・ 掲示物の視覚刺激や音なども統制されていた。
- ・ 障害特性を把握→行動を特性から解釈→解釈に基づいてプラン→実行→結果→修正→のサイクル
- ・ 自己効力感→「自分はできる、達成感、やればできる、手伝ってくれる人がいる、自己統制感」
- ・ 「つながり」が大事：横のつながり（TT間など）
縦のつながり（小・中・高・社会）※こうすると「できる」という情報をつなぐ。

(2) まとめ

成果（＋）	課題（－）
<毎日の振り返りに関して>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの時間が設定されていることで、学習グループの教員全員で話し合うことができた。 ・ 毎日の振り返りが、日々の授業に生かされた。 ・ 対象の児童生徒についての話し合いが、他の児童生徒の指導に生かされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの時間がなかなかとれなかった。 ・ 振り返り実施の学部間、学習グループ感の差があった。
<授業改善チェックシートなどのシートについて>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シートをオリジナルの様式や方法に変えて活用できた。 ・ 共通の観点やシートがあることで、学部の教員全員が同じ方向を見て取り組むことができた。 ・ シートの記入や資料の作成を通して、児童生徒の実態把握や授業のねらいが明確になった。 ・ シートの作成も大事だが、シートをもとに話し合うことができて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シートに記入し評価をして、その後授業に生かすことが不十分だった。 ・ 資料の提出が多いように感じた。 ・ ねらいや観点、項目をもっとしぼった方が良い。
<授業公開に関して>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開の分科会では外部からの意見をいただけなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分科会への外部参加者が少なかった。

☆次年度に向けて☆

- ・ 毎日の振り返りを学習グループのT1の教師が中心にそれぞれ行う。
- ・ シートの種類や項目の精選を行う。
- ・ シートの授業への活用方法を具体的に工夫する。
- ・ 学校全体で共通するシートをもとに、それぞれの学部で授業の中で単元や教材などとして具体化を工夫する。
- ・ 学部や学習グループ独自の研修方法の工夫を推奨する。
- ・ 記録をシートに残すことと、フリーで話し合う機会の両方を充実させる。
- ・ 公開する研究授業の設定にオリジナリティを出す。
- ・ 四倉分校舎に分かれることを前提に「つなげる」体制づくりを考える。

